

Title	中村恵氏を悼む
Sub Title	Announcement : Death of Mr. Kei Nakamura
Author	法学研究編集委員会(Hogaku kenkyu henshu iinkai)
Publisher	慶應義塾大学法学会
Publication year	1967
Jtitle	法學研究：法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.40, No.7 (1967. 7) ,p.147- 147
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19670715-0147

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶応通信株式会社
取締役編集部長

中村恵氏を悼む



昭和四十二年七月九日、慶応通信株式会社取締役中村恵氏が急逝された。本誌と同氏とは、寔に因縁浅からざるものがあつたので、ここに遺影並に訃報を掲げ、謹んで哀悼の意を表する。

中村氏は愛知県豊橋の御出身で、享年六十一歳。県立豊橋中学を経て慶應義塾に入られ、昭和五年三月、優秀な成績で法学部法律学科を卒業せられた。在学中は弁論部員として活躍されたという。

昭和七年一月、中央公論社に入社、同社発行の諸雑誌の編集に従事され、十一年五月、「財政経済時報」の主幹に迎えられ、同誌の発展に寄与されたが、支那事変勃発前後の頃、華北交通株式会社資業局へ入社、大陸に渡つて弘報業務を担当しておられたが、その後、東京支社に転じ、十八年三月には文書課長に進まれた。しかし、終戦後の同社の解散によつて退社、二十三年四月、創立早々の慶応通信株式会社編集課長に迎えられ、専ら同社発行諸単行本の企画、編集を担当、のちに編集担当の取締役に榮進され、今日に至つたのである。

終戦後、しばらく休刊していた本誌が再刊されたのは二十二年

の秋で、小冊子ではあつたが、当時としては珍しい月刊の法学部機関誌として颯爽と学界に登場したのである。ところが、当時は塾生から会費の徴収が困難であつたので、たちまち財政的にゆきづまり、翌二十三年から二十四年にかけては、文字通り氣息奄々たる状況にたち至つた。中村氏と本誌との交渉は、ちょうどこの頃から始まつた。本誌の発売元である慶応通信株式会社の絶大な協力で、本誌の発行は辛うじてつづいたが、同社内にあつて、その方針を強力に推進された人こそ、中村氏であつたのである。その頃の本誌を、今日、われわれが手にするとき、慶応通信の好意、とりわけ中村氏の並々ならぬ御援助を想い起し、こみあげる感激の情を禁じえないのである。

そうした外部的援助そしてまた当時の編集委員の努力にも拘らず、本誌は二十四年の第八号から五号分を遂に中断、二十五年一月から、全学部生の会費制で再出発し、現在に至つている。その後においても、本誌の企画、編集、内容の充実に、中村氏から寄せられた貴重な御助言は、われわれの感銘措く能わざるものが多い。いま、にわかに中村氏の訃を聞く。編集委員会は、生前の氏が本誌に与えられた数々の御厚情に感謝の辞を捧げると共に、その御冥福を祈る次第である。

昭和四十二年七月二十一日

編集委員会